

フィルムからの大伸ばし

その1

解像度とホコリに注意する

35 mm フィルムからでも、A3 以上の大判プリントを楽しむことができます。きれいな大判プリントに仕上げるための作業のポイントをまとめました。まずはスキャン時の解像度の設定と、ホコリの除去について解説します。



Point 1

出力サイズと解像度

フィルムスキャンで解像度を設定する際には…

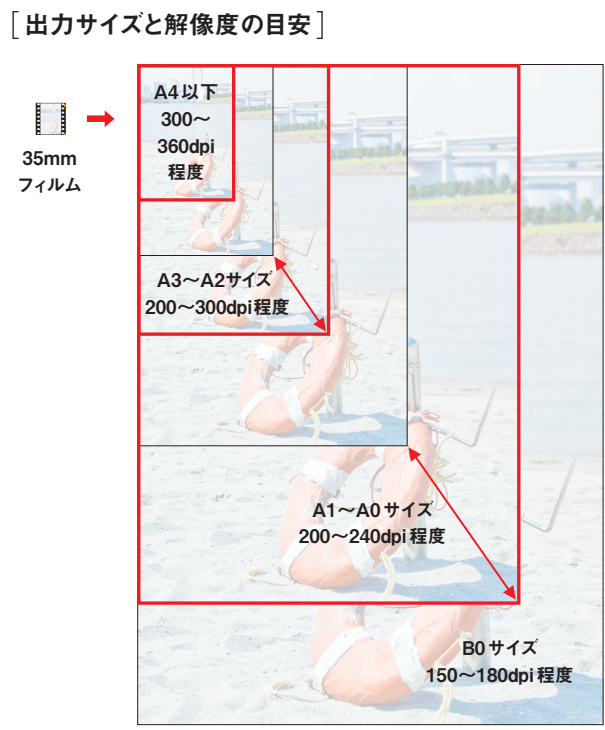
- プリントしたい用紙サイズに合わせて、1 出力サイズと2 解像度を設定します。
- 大きなサイズの作品ほど鑑賞者は離れて見る（鑑賞距離が長くなる）ので、解像度を下げても問題ありません。
- 解像度を高くするほどきめ細かな画像になりますが、その分データの容量も大きくなり、スキャン時間、パソコンの処理時間、プリント時間も長くなります。
- 出力サイズと必要な解像度の目安は、下表を参考にしてください。プリント品質と処理時間を考慮した現実的な参考値です。



〔解像度と出力サイズの設定〕
EPSON Scanで解像度と出力サイズの設定を行うには、「出力サイズ」および「解像度」のメニューから該当する項目を選択します。

幅	高さ	解像度
50	72	96
72	96	150
96	120	200
120	144	240
144	168	266
168	192	300
192	216	350
216	240	360
240	264	400
264	288	480
288	312	600
312	336	640
336	360	800
360	384	1200
384	408	2400
408	432	3200
432	456	4800
456	480	6400
480	504	9600
504	528	12800

1 出力サイズ	2 解像度の目安
A4 (297×210mm) 以下	300～360ppi 程度
A3 (420×297mm) ～ A2 (594×420mm)	200～300ppi 程度
A1 (841×594mm) ～ A0 (1189×841mm)	200～240ppi 程度
B0 (1456×1030mm)	150～180ppi 程度



■ 「出力サイズ」メニューに希望するサイズがない場合

「出力サイズ」に希望するサイズがない場合は、「ユーザー定義サイズ」を選び、任意の大きさを入力することで、メニューに登録することができます。

ユーザー定義サイズの設定画面。ここで名称やサイズを入力し、保存すると、それが出力サイズのメニューに現れるようになります。便利です。

Point 2

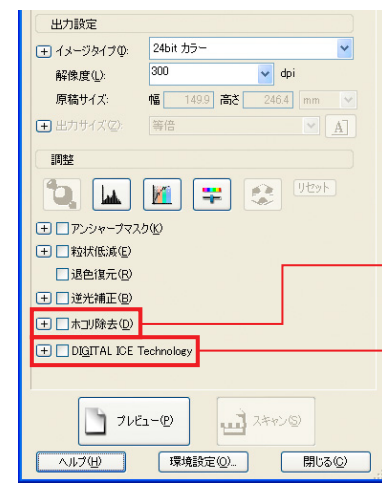
ホコリの除去

出力サイズを大きくするほどホコリは目立つ

- 大きく伸ばせば伸ばすほど、小さなキズやホコリも大きく拡大され目立つようになります。スキャン前の対策をしっかり行いましょう。
- スキャン前に、フィルムの両面のホコリをブロワーで吹き飛ばし、指紋などの汚れが付いている場合は市販のフィルムクリーナーを使って拭き取ります。また、スキャナーのガラス面も柔らかい布で拭いて丁寧にクリーニングしましょう。
- それでも除去できないホコリには、EPSON Scanやアプリケーションソフトのゴミ取り機能で対応しましょう。下表にその方法とそれぞれの特徴を示しましたので、参考にしてください。

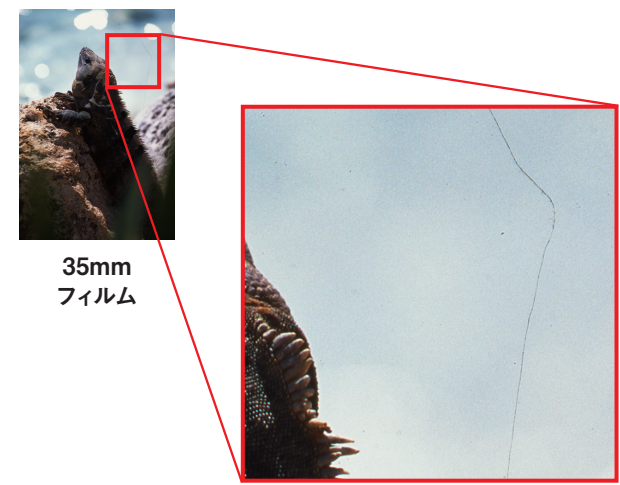
〔EPSON Scanのホコリ除去機能〕

EPSON Scanには、チェックするだけでホコリや汚れを取って（軽減して）スキャンできる、「ホコリ除去」や「DIGITAL ICE Technology」が用意されています。



〔大伸ばしするほどホコリも目立つ〕

フィルム上のごく小さなゴミも、大伸ばしすると一緒に拡大され、目立ってしまいます。



〔ホコリ除去方法の比較〕

スキャン時に消えなかったホコリは、スキャン後にPhotoshop (Elements) の「スポット修復ブラシツール」などを使って手動で消しましょう。

機能	使い方	特徴
EPSON Scanの「ホコリ除去」機能	スキャン時、該当欄にチェックを入れれば自動で除去される。	簡単。ただし、ホコリの付き具合によっては、思いどおりに補正されないことがある。
EPSON Scanの「DIGITAL ICE Technology」※	スキャン時に、該当欄にチェックを入れれば自動で除去される。	簡単。「ホコリ除去」よりも補正力がある。ただし、処理にパソコンのパワーが必要で、スキャンに時間がかかる。
Photoshop (Elements) の「スポット修復ブラシツール」など	スキャン後に画像を開いて、一つずつ手作業で消す。	手間がかかるが、思いどおりに処理することができる。

※対応機種のみ

▶ Point 3 レタッチ(明るさや濃度、色味などの調整)

大きく伸ばすときほど濃度を少し上げておくとい

- 絵柄にもよりますが、大判でプリントすると浅く見える傾向があります。大きくプリントする際は、多少濃度を高くしておくイメージに近い仕上がりの写真になります。
- 写真の明るさやコントラスト・濃度・色味の調整は、スキャン時に EPSON Scan の調整機能を用いても、スキャン後に Photoshop などでも調整しても、どちらでも構いません。
- スキャン後に Photoshop などのソフトで調整する場合は、スキャン時に 48bit モードでスキャンしておく、レタッチによる画質の劣下を最低限に抑えることができます。ただし対応ソフトが限られていますし、ファイルサイズが大きくなるため、パソコンのパフォーマンスが要求されます。

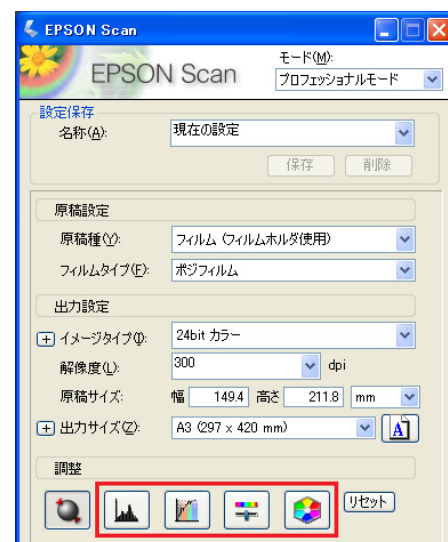
〔大きく引き伸ばすほど浅く見える〕

一般に大判プリントにすると、浅く見えることがあります。実際にプリントして気になるのなら、画像の濃度を上げましょう。



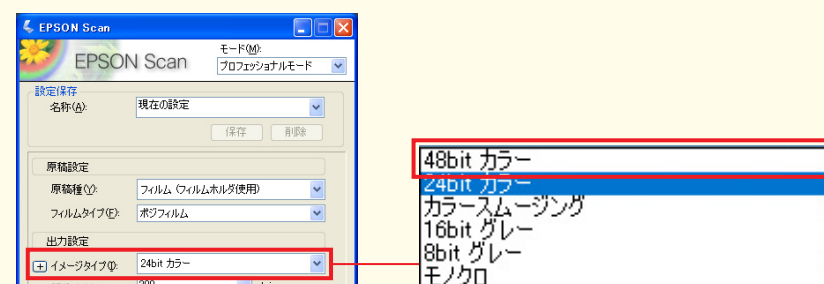
〔EPSON Scan の画像調整機能〕

スキャン時に濃度や色味などを調整したい場合は、EPSON Scan の調整機能を利用しましょう。「調整」欄にある各ボタンをクリックすると各種画像調整を行うことができます。



▶ 48bit でスキャンするには

48bit でスキャンするには EPSON Scan の「イメージタイプ」で「48bit カラー」を選択し、スキャンします。ただしデータ量が 2 倍になるため、処理に時間がかかります。



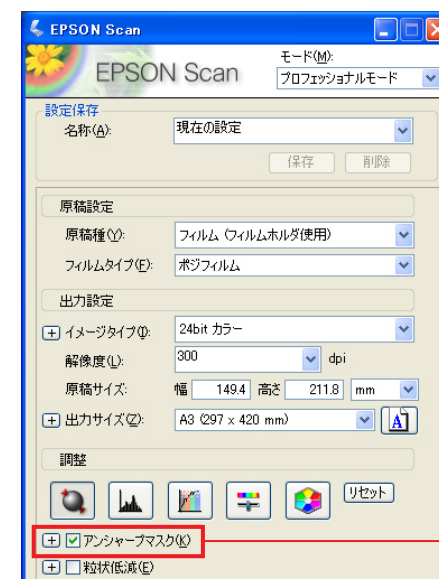
フィルムをスキャンして大判プリントする場合、サイズや絵柄によっては、濃度や明るさ、シャープネスにも注意が必要です。そうした処理の際のポイントをご紹介します。

▶ Point 4 シャープ処理

大きく伸ばすときほどシャープネスは少し強めに

- 絵柄にもよりますが、一般的に、大判にするほどシャープネスを強めに設定することで、写真の見栄えがよくなります。
- スキャン時のシャープ処理は弱めにかけておきましょう。EPSON Scan の「アンシャープマスク」で「弱」または「中」に設定してスキャンします。
- スキャン後には原寸で確認し、それでもシャープネスが足りなければ、Photoshop (Elements) の「ハイパス」フィルターなどで微調整します。「ハイパス」はやり直しができるのでおすすめです。

〔EPSON Scan のアンシャープマスク〕



スキャン時にシャープ処理をする場合は、EPSON Scan の「アンシャープマスク」で、原則として「弱」または「中」を選ぶのをおすすめします。



プリント後のシャープ感を予測しにくいので、スキャン時は弱めのシャープネス処理にしましょう。

〔Photoshop でのシャープ処理〕



シャープ処理の最終調整は、スキャン後に、Photoshop の「ハイパス」フィルターでやり直しも可能です。シャープ処理の効果は、必ずモニターに原寸で表示して確認すること。できれば、テストプリントでシャープの強さを実際に確認するのがベストです。シャープ処理の程度は、1 「ハイパス」フィルターの「半径」や、重ねたレイヤーの 2 「不透明度」で調整できます。



スキャン後、Photoshop の「ハイパス」フィルターを使って、最終的なシャープネス処理を行います。大判にするほど強めに処理すると効果的です。